



*We wish you a Merry Christmas and
a happy new Year.*

今年の漢字一文字は「戦」
戦いの2022年が終わろうとしています。
そして2023年は、新しい風が吹きそうな・・・。

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
会長 西浦 公子

2022年もコロナに始まりコロナで終わろうとしています。3年目になると、コロナでもできること。コロナだからできることを模索するようになりました。昨年度は断念した、仲間を募る「鳥取県青少年アドバイザー養成・公開講座」ですが、今年は、みんなの思いが届き開催できました。そして、4人の仲間が増えたことは大変喜ばしいことでした。2023年は行動を起こす年だそうです。仲間を増やす取り組みを鳥取県も合同で開催できるような形を・・・との話もでています。内部研修だけでなく、そろそろ外に向けて何らかの行動を興したいと思います。



本年度後半に開催された県内・県外の研修会は以下のとおりです。

○中四国ブロック研究集会

2022年9月10日(土) 出雲市

参加者:西浦会長、山本顧問、清水氏、新事務局長

～ 中四国ブロック青少年アドバイザー連合会
研修集会に参加して ～


鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
会長 西浦 公子

延期、延期となっていた、鳥根県主催の「中四国ブロック青少年アドバイザー連合会研修集会」も、開催されました。基調講演は岩本 悠氏(一財) 地域・教育魅力化プラットホーム代表理事)で、演題は「高校生の地域参画から考える これからの地域社会を担う若者の育成」でした。隠岐高校の県外からの留学制度等で、隠岐の島の活性化の立役者。

人を巻き込んで動かなければ何事も成し遂げることはできないのだと痛感しました。

「わかものディスカッション」は若者によるパネルディスカ

ッション。テーマは「地域で育む青少年の社会参画～青少年育成の主役は青少年～

学校教育が点数主義となっていて、自分で考える事や表現する事ができない青少年が増えていると言われていいます。社会とは?仕事とは?役立つとは?等を考えて、高校生の時からNPOを立ち上げて活動している若者達の話は凄く刺激的でした。*自分から動かなければ何も変わらない*好奇心を持つ*無い物は無い、作っていくしかない。*人の協力のありがたさ。等々学ぶべきところが盛りだくさんでした。このような若者達に日本の活性化を!!との期待感とともに、私たちも、まだまだしなければいけないことがある。と、身の引き締まる思いがしました。 

研修会の様子は、鳥根県青少年育成アドバイザー協議会から「アド・ネット」が届いていますので、事務局からの配信も併せてご覧ください。

○青少年育成推進指導員・青少年育成アドバイザー 合同研修会

2022年11月9日(水) 於:倉吉体育分工会館

講師:鳥取県アドバイザー会員 松原厚子 氏


「つながる…子どもたちがいたから」

概要は次のとおりです

～6人の子どもに恵まれ、「子どもたちがいたからこそ、今の自分がある。いいご縁を子どもたちにもらった。」とつながりに感謝しています。

5人目の子は、上の子と7つも歳が離れていたため、子育てをもう一度一から始める気分でした。

私の時代は終わった、とも思いましたが、「子育て」は、いつの時代も変わってほしくないこと。」という思いから、若い世代の人たちの中で一緒に PTA 活動をし、うるさいおばさんでもいいか、と自分のこだわりも言えました。PTA を通して、地域の方々ばかりでなく、様々な立場・様々な職種の方々となつなかりが持て、さらに次の活動へとつながっていています。

「子育て」はするべき経験であり、人生が豊かになる、と振り返りながら、この思いを若い世代に伝えたいと思っています。～ 

○鳥取県青少年育成アドバイザー養成公開講座
11月26日(土) 倉吉市立上井コミュニティセンター



手記：鳥取県アドバイザー協議会
清水 成真

令和4年度の鳥取県青少年育成アドバイザー協議会主催による「鳥取県青少年育成アドバイザー養成公開講座」が開催されました。

コロナ禍による影響で実に3年ぶりの開催でした。会員一同、準備を含め、楽しみにしていた公開講座でした。受講生は8名でしたが、非常に充実した公開講座となりました。

午前中の講義1では、「青少年を取り巻く現状」と題して、会員であるNPO法人子ども未来ネットワークの竺原晶子さんが、「見えなくなっていく青少年」の現状について、さまざまな事例を通して講義をしていただきました。



講義2では、会員である元校長の西上洋治さんが、「青少年育成アドバイザーの役割」として講義され、「気づく感性」「できることを思考」「実行する意欲」という観点から受講生個人の考えや思っていることを実際に実践しながら講義をされました。



また、今回の養成講座を担当した芳村恵子会員から、「おとなからきみへ」というメッセージソングが紹介されました。

～ 絵本「おとなからきみへ」～
サトシン(作) CD付き

「大人なんか全然つまらない、

大人なんか絶対なりたくない」と、言う子どもに対して
「大人って面白い 大人だから面白い

大人こそ面白い そんなこと大人になって知ったんだ」と、軽やかな音楽にのせて大人からのメッセージ。

「何だってなれる 本当になろうと思えばね

それが本当に大好きで 自分にむいていればね

自分で自分の人生を 切り拓いて進めるのさ

それが実際できるようになるのが

子どもじゃない 大人なんだ」

子どもには未来予想図を描くための気づきとなり
大人には堂々とこのように語られる大人でありたい
と 気づかされた絵本です。



午後からの講義3では、鳥取市立明治小学校教頭の寺谷孝志先生が「コミュニケーションスキルをアップして」と題し、～大人こそ活かそう自分の持ち味～という観点で、5人づつに集まりワークショップをいたしました。



今後は、同じ仲間として一緒に活動することを胸に解散をいたしました。



芳村恵子

いつまでも続くコロナ禍、まさに第8波が決定的な中でしたが、漸く2回目の公開講座を開催することができました。見えないウイルスへの対策は、分かり切っているとはいえ、不安なものでした。

講師の方々には、テーマに沿った内容の講義をして頂き、担当者として大変嬉しく、二年越しの肩の荷が下りました。また会員の方々のご協力感謝しています。ありがとうございました。

新たに入会希望をして頂いた方々に、さわやかな風を入れて頂き、鳥取県青少年育成アドバイザーを共に盛り上げていけたらと思います。

養成公開講座受講生からの感想・意見

1, 今回の講座に参加した目的および受講でめざす
ゴールは？

- ・青少年のために何か一つでも役立つことをみつきたい。
- ・青少年を取り巻く環境の変化と現状について
どのような取り組みを行っていくのか。
- ・何も知らずに参加している。青少年育成アドバイザーがどんな存在なのか理解したい。
- ・他の地域の青少年育成の実施状況が知りたい。
- ・身体的不自由から役職を退いたが、自己の不自由より未来の子どもたちの将来に託す期待が大きい。
- ・高齢者、老人会、自治会、子供会など活動に取り入れたい。
- ・視野(考え)を広げて活動に活かしたい。
- ・高齢者を、子どもで何かできコミュニケーションがとれたら。
- ・子どもに関わる仕事が多くなるので、知識や関わり合いへのポイントを学びたい。
- ・視野を広げたい。
- ・青少年育成を進めるうえで、苦手な子ども・青少年とのふれあい方を学ぶ。

2, 目的は達成されたか？

- ・青少年のためのイベントのヒントをもらえた。
- ・ぼんやりとできた。
- ・青少年育成アドバイザーについて、ある程度知ることができた。
- ・2人の子持ちであり、将来的な不安もあるため、いろいろ考えなければならぬと思う。
- ・まだ未熟。知識を習得したい。
- ・修士論文テーマの選定に貴重な資料となった。
- ・学校以外で役立つことが参考になった。
- ・勉強になった。
- ・気持ち的には達成できたがハードルが高すぎる。

- ・自分の強みを再認識できた。
- ・アドバイザーとしての役割を知ること、自分は何ができるか、どのように実行したらよいかを知ることができた。
- ・内容的に半分程度達成できた。

3, その他、感想、改善した方がよいこと

- ・初めて参加したがいろいろな学びがあり充実した1日だった。
- ・インターネットの普及をはじめ今の子どもたちにはたくさん問題がある。子どもたちの将来のことを考えながら生活していきたい。
- ・非常に役に立った。役立てていきたい。
- ・各市町村役場に普及活動をお願いしたい。
- ・各市町村の青少年育成は、例えば県の教育委員会扱いでまとまった活動はできないか？
- ・商社の仕事(若者との接し方)にも活かそう。
- ・少しでも前へという気持ちになれた。
- ・多くのことを学ぶことができた。

4, 鳥取県青少年育成アドバイザー協議会に

入会したい	2名
入会してもよい	5名
入会できない	1名

5, 全日本青少年育成アドバイザー養成講座について

受講したい	2名
検討したい	1名
受講する気はない	5名

(n=9 このうち4と5の無回答が1名)



養成講座を終えて

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
事務局長 新 勝彦

本当に久々の熱い熱い研修会に立ち会ったのは何年ぶりのことか。この様な熱い会は、コロナ禍の副産物？鳥取県下から、手を挙げてご参加下さった9名の受講生。おのおのの立場で参加されているとは思いますが、多くの方から「何かヒントをいただけたら、と参加しました。」この様な声がたくさんありました。70代～80代の先輩からこの様な声を聞き、西上副会長の言葉を思い出しました。「アドバイザーの特権は、生涯現役!!」そして、夢を語り出された、受講生の方もおられました。「夢」は、人に話したときから「夢」ではなくなります。どんどん「夢」を語りましょう!!そんな青少年育成の「夢」を語るころが、鳥取県青少年アドバイザー協議会のような気がします。